



平成29年度九州ブロックスポーツ少年団 リーダー研究大会(報告)



公益財団法人大分県体育協会
大分県スポーツ少年団リーダー会





開催期日・場所

期日 : 平成29年10月21日(土)～22日(日)

場所 : 大分市立のつはる少年自然の家

対象者 : 九州各県スポーツ少年団

リーダー会代表者 5名

リーダー育成担当者 1名

参加者

	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	大分県	合 計
リーダー	3名	5名	3名	0名	1名	0名	2名	5名	19名
指導者	1名	1名	1名	0名	1名	0名	1名	1名	6名
合 計	4名	6名	4名	0名	2名	0名	3名	6名	25名

※ 鹿児島県は4名の出席予定であったが、台風接近のため不参加。



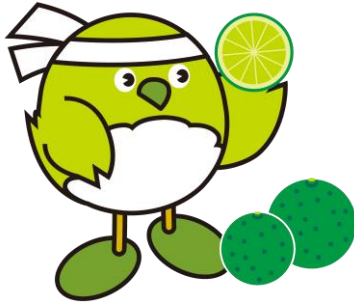
研究テーマ

「アクティブ・チャイルドプログラムの 効果的活用について」

～ 様々なシチュエーションに対応した
レクリエーションプログラムの企画と運営 ～



日程及びプログラム内容

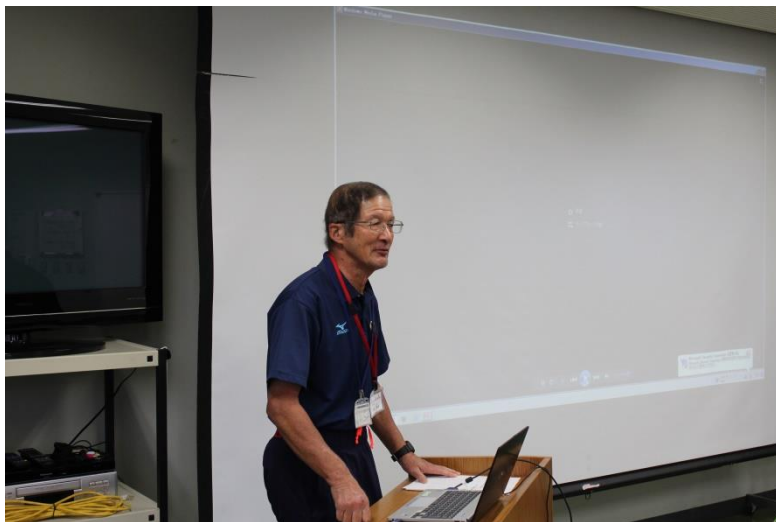
1日目：10月21日（土）		2日目：10月22日（日）	
12:30	○受 付	7:00	○起床・清掃・荷物整理
13:00	○開会行事・オリエンテーション	8:00	○朝 食
13:30	○講 義 『アクティブ・チャイルドプログラムとは』 講師 畑瀬 博幸 氏 (佐賀県スポーツ少年団)	9:00	○全体会 『様々なシチュエーションに対応した レクリエーションプログラムの実践と評価』
14:30	○実 技 『アクティブ・チャイルドプログラムの実践』 講師 田中 孝平 氏 (佐賀県スポーツ少年団リーダー会)	11:30	○講 評
16:00	○分散会① 『様々なシチュエーションに対応した レクリエーションプログラムの企画』	12:00	○昼 食
17:45	○タ 食	13:00	○閉会行事
18:30	○分散会②		
20:00	○自由交換会		



1 講義(1日目13:30~14:30)

演題 『アクティブ・チャイルドプログラムとは』

講師 畑瀬 博幸 先生(佐賀県スポーツ少年団)



身体を動かす機会の減っている子どもたちの現状や身体を動かすことの重要性について学びました。



2 実技(1日目14:30～16:00)

演題 『アクティブ・チャイルドプログラムの実践』

講師 田中 孝平 先生(佐賀県スポーツ少年団リーダー会)



新聞紙やボール、ロープなどを活用した運動プログラムを参加者全員で実践しました。



3 分散会①(1日目16:00~17:30) 分散会②(1日目18:30~20:00)



分散会①では各班が様々なシチュエーションに対応したプログラム(60分)の指導案を作成しました。

分散会②では分散会①で作成した指導案を、他の班が20分版の指導案(全体会での実践用)に編集しました。

各班に提示したシチュエーション



テーマ1 スポーツ少年団(サッカー女子)の練習前のレクリエーション

対象者 小学生及び中学生(入団したばかりの団員を含む) 15名～20名

テーマ2 スポーツ少年団(軟式野球)の練習前のレクリエーション

対象者 小学生(入団したばかりの団員を含む) 30名～40名

テーマ3 各県で開催するスポーツ少年団ジュニアリーダースクールでの交流会

対象者 小学生及び中学生 50名～60名

テーマ4 幼稚園の年少を対象とした運動遊び

対象者 幼稚園児(年少) 10名～15名

テーマ5 小学生児童育成クラブでのレクリエーション

対象者 小学生 30名～40名



4 全体会(2日目9:00~11:30)



全体会では分散会②で作成した指導案をもとに指導実践を行いました。各班の指導実践後は、参加者全員でディスカッションを行い、活発な意見交換が行われました。また、各班の実践に対して指導者の先生方から指導・助言を行っていただきました。



5 評 価

指導者の方々には下記の視点から評価していただきました。

《内容》

- 時間配分は適切であったか
- 目的が達成されるACPがプログラム内に効果的に活用されていたか

《団員への関わり方》

- 声の大きさは適切であったか
- 表情は適切であったか
- 説明は分かりやすく適切であったか
- リーダーとしての動きは適切であったか
- 班内で役割分担は適切に行われていたか
- 活動しやすい雰囲気づくりに努めていたか

《その他》

- 指導案は分かりやすく整理されていたか
- リーダーが楽しく活動していたか



参加リーダーの活動の振り返り

久しぶりに指導案を作成して、実践するのが改めて難しいと思いました。最初のテーマは少年野球の練習前のウォーミングアップで、外で行うことを想定するので、注意点を考えたり、野球で必要なスキル考えながら60分間、団員が楽しめるようにレクを選ぶのが大変でした。

分散会②の指導案作成では、対象が幼児(3～4歳)で、言葉づかいや説明の分かりやすさとか安全面など、いろいろ気をつかいながら考えるのが難しかったです。また、20分間という短い時間設定なので、考えることが多くて指導案を作成する時間も、実践のための打ち合せ時間も全然足りなくて、準備不足のままでした。

私の班には、リーダー歴が4～5年の人もいれば、1年目の人もいたので、互いに意見を出しながら協力できたのでよかったです。



6 成果と課題

《成果》

- 各県参加リーダーがACPの趣旨や概要について再認識する場となった。
- シチュエーションの異なる2本の指導案を作成したことにより、リーダーの資質向上につながった。
- 全体会では、各班の指導実践後に参加リーダーによるディスカッション、指導者からの評価を行ったことで、各班の課題等の振り返りが行えた。

《課題》

- ACPの趣旨を踏まえたシチュエーションを提示した方が良い。
(レクリエーションとの区別を図るため)
- 作成した指導案の活用と各県での実践を次年度の研究大会につなげる。